

～ 世界は、自分たちの手で変えることができる ～

実態・課題・改善方針	「学ぶ力」			
	令和8年度 課題解決に向けての4つの焦点とキーワード			
	①学びを変える ▷子どもが主役の多様な学び ▷ゴールが見える単元計画 ▷社会や世界とつながる学びとホンモノの経験 ▷学びの自己調整につながるホンモノの評価	②誰一人取り残さない ▷学びのユニバーサルデザイン化 ～教える授業に育てる授業を加える～ ▷サポート体制の充実	③未来は自分たちで創る ▷総合的な学習を中核とした教科横断的な学び ▷学年を超えて合意を導くシン異学年交流 ▷学校・社会・世界を変える自治的な活動	④地域とともに ▷共創型コミュニティスクール ▷部活動の地域展開
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題解決に向けて				
◇各教科における継続的な「ユニット活動」や「異学年交流」の実践の積み重ねを通して、人と学び合うスキルは学年が上がるごとに向上している。令和7年度は特に単なる意見の交流ではなく「合意形成の場」としてのユニット活動の充実に取り組み、生徒の間でも「対話による解決」への意識が高まった。 ▶より質の高い合意形成（安易な妥協ではない合意）の基盤形成のために、各教科の課題探究的な学習や生徒の自治的な活動の中で、「正解のない問い」を意図的に設定し、実践的スキルとしての定着をはかる。 ▶生徒たちからの「異学年交流の一層の充実」の声を受けて、「学年の枠を超えて合意を導く＝シン異学年交流」の充実をめざす。 ▶「傾聴と共感」「みんな違ってみんないい」という雰囲気醸成をベースにしながらも、そこにとどまらず「必要に応じて建設的な反論を交わし合う経験」を通して、意見の対立を「人格の否定」ではなく「視点の違い」として捉えられる宮中生徒の育成を目指す。				

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学校生活・地域社会・世界情勢に目を向け、今を生きる当事者としてその課題に気づく力、自らを社会とつなげ価値づける力

具体的な取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	①総合的な学習の時間を中核とし、社会とのつながりや、自らの社会的価値の発見を目的とした、教科横断的な学びの体系化をはかる。 ②各教科の学習では、単元のゴールを明確にし、実生活や実社会とのつながりが実感できるものとして示していく。 ③単元計画を見える化し、生徒自らが単元ごとに個人の課題や目標を設定したり、単元内で学び方を自己決定する時間を設けることで、生徒が学習を自己調整する力の育成をはかる。 ④学力以外の評価軸を設定し、子ども一人ひとりの魅力や強みを伸ばすため、Ai GROW による非認知能力の測定・可視化をはかる。	①4月～5月を「人間尊重の教育」学校観の共有期間とし、6月の旅行的行事への準備活動を通じた人間関係づくりなどを「プラスのまほう」をキーワードに生徒主体で進めていく。 ②生徒会による学校改善プロジェクト（目安箱）の継続実施。 ③文化祭における PTA バザー昼食の収益の運用の仕方を、「社会貢献」をテーマに生徒会が PTA 役員と共同で考える。 ④学校運営協議会における生徒の参加と、地域の課題を共有し、解決に向けて共に試行錯誤できる共創型コミュニティスクールの実現。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇個々の深い洞察や分析のデジタル上での可視化を通して、「集団の学びの加速」や「新たな価値の創出」をはかる①①②④		◇生成 AI やネット情報の活用が日常化する中で、引用時の出典明記や情報の真偽を確かめる「学習・研究のマナー教育」の充実をはかる①

<本プログラムの実行に向けて>

